

第8回（仮称）新武蔵野クリーンセンター施設まちづくり検討委員会

議事要録

日 時	平成 21 年 2 月 10 日（木）18：30～21：55
場 所	武蔵野スイング 10 階 スカイルーム
出 席	寄本勝美委員長、田村和寿副委員長、早川峻委員、越智征夫委員、石黒愛子委員、広江詮委員、橘弘之委員、金子委員、佐々木保英委員、村井寿夫委員、事務局（環境生活部環境政策担当部長、クリーンセンター所長他）、傍聴 11 名

副委員長：前回傍聴者より厳しい意見が聞かれたが、委員が言ったように双方のコミュニケーションが足りないことが理由と思われる。意見を踏まえて今後どのように進めていくのかを検討する必要もあると思う。

1. これまでのまとめ

事務局より「これまでのまとめ」（建て替えの必要性、運営協議会の活動から学ぶものの、新施設へのフィードバック）の説明

委員：プラスチック焼却の時期は、議論があったと思う。処分場がパンクするので処分場に入れなかったためにプラスチックを燃やしたと思うが、エコセメントの稼働で相当延命されたと認識している。運営協議会ではどのような説明だったか

委員：運営協議会では燃やさないで欲しいとの意向があったが、最終処分場の問題があり、桜川村まで焼却灰を持っていったりとしていたが、苦渋の選択として処理を始めた。汚れたままのプラスチックを綺麗なプラスチックに入れると問題なので分けてみようとの話もあった。成蹊大学の教授にも確認いただいたが高温になったので窒素酸化物が高くなった。低いとダイオキシン類が出てくるので、今度は脱硝設備を用いて窒素酸化物を低減してはとあった。ごみ質のなかでも 20%位で高い温度になっていると思う。現在は容器包装であっても汚れたプラスチックは焼却処理しているが、焼却灰はエコセメント化しているので、プラスチックを燃やすことは致し方ないと言ったところ。是非燃やしてくださいという考えではない。

委員：焼却でプラが入ると爆発的に燃えると言ったことを聞いたがどうか。

事務局：ストーカでは緩慢燃焼なのでバケツが入ったからといって燃え方にムラが出るとは考えにくい。流動床方式では瞬時燃焼なので考えられます。

- 事務局 : 搬入配分量と埋め立て物の性状を二ツ塚で言われているので、靴等処分できないものを燃やすこととなった。
- 委員 : 成蹊大学の資料は問題ないとの意見だったが、ボイラー等が高温になることで影響があるのではという部分を見ていこうとの課題になっている。
- 委員 : 最終処分場から（埋め立て不適物となっている）ゴム製の靴等を戻された経緯がある。武蔵野市の市民は何を考えているのかと言った酷い状況であり、金属等も沢山入っていて、武蔵野のごみは質が悪いと処分場の地元にも言われても仕方がない。地域で 5000 名の方に説明し、何度も武蔵野のごみは返されたと話していた。周辺の地元の方は市民がきっちりごみを分別して欲しいという感想だった。
- 委員 : P.95。分別の不適物については戸建ての所が一番悪い。戸建ての方が良いと考えていたが、状況が判れば教えて欲しい。
- 事務局 : P.95・P.96 は燃やさないごみです。P93 が可燃ごみの資料で、ここを見ると戸建ての方が良いことが判る。戸建てでは紙おむつの使用が多いとの武蔵野の状況がある。P.94 での紙類は単身者では多く分別されていない状況となっており、武蔵野市の状況が見られると思う。
- 委員 : 委員が聞かれたのは、サンプル数とかデータ等について聞いたのではないのか？そんなにデータ数が取れないと思われるが、武蔵野のデータベースとしてお墨付きを与えている根拠を聞きたい。
- 事務局 : 不燃ごみは 13 町について区分ごとに 520kg ほど集めて縮分してサンプリングした。可燃ごみは 13 町の集積所より 400kg をサンプルしたものです。
- 委員 : 地域はどうか。
- 事務局 : 偏らないように 13 町から集めた。平成 19 年が初めてであった。本年度もまた行ってきたのでより詳しいデータとなると考える。
- 委員 : なぜ建て替えが必要なのかについて。現クリーンセンターを更新できないのかと言った考えに対する答えなので、焼却炉を修理しながらでは他の自治体に処理を委託しなければならないが、難しいと整理すること。そして古い施設を更新しながら利用すると使い勝手が悪い等の検討資料の例を記載してはいかがか。小金井市は他の自治体をお願いして歩いているが、武蔵野市のように運営協議会の了解等が必要であり、民間委託すると直しながらお金がかかるという二重苦になる。市民は直しながら使えないのかと言われるが、前述の議論を記載し、なだめすかして使ってもリスクが高くなる。施設が止まると、突然ごみ処理が止まり、市内にごみが溢れると言ったところを判るようにはっきり書くべきと思う。
- 事務局 : 客観的に判るように記載していきたいと思う。
- 委員 : 運営協議会との長い歴史。24 年間の実績があるので、ここで安全を確認して

きたとあるが、それだけか。行政との信頼関係を確立してきていると思うが、そうであれば明確に記載して良いと思う。

副委員長 : 信頼が形成されていることについては、私も気になっていた。私ははっきり書いても良いと思うが事務局はどうか。

事務局 : 運営協議会と行政が手を組んで行ってきたことと考えている。20周年の章立てから言っても同じことが言え、パートナーシップについては大いに書き加えて行きたいと思う。23区と違って武蔵野の特徴と思う。

副委員長 : 24年間は長いことであり、施設ができた歴史よりよっぽど重いと思う。24年間の信頼で、あそこの位置で良いのではとの議論とも関係する。極端にほめることもないとは思いますが。

事務局 : 片思いではいけないので、運営協議会の意見を聞きたいと思う。先般、小諸市より視察があったが、ハードだけでなく運営協議会のソフトの視察だった。

副委員長 : ここには委員の方しかいないが、有りのままに表現して良いと思う。

委員 : 部会で話が出ている。その時の想いと違うところがあるようだ。運営協議会の議事録を見ていく必要があると思う。本来知りたかったことは、地元の方がなんらかの抵抗を持ってこの施設を見ている。市側はハードの対応を行ってそれで満足しているようだ。議事録を見ると厳しい言葉もあるので、ここに上げていること以外にもあったと思う。まず、議事録を整理してから上げて行くべきと思う。一度工事をして終わりではなく、チェックして見直すことが大切で、協議会はそれを継続して行ってきた。それを外部に発表するのの一つと思う。書く前にその整理が必要と思う。

副委員長 : リスク管理がどうかをはっきり書いていくべきと思う。迷惑施設がどこにくるのが当初の議論で、私は施設がどこに行っても安心できるものとしていきたかったが、これまでの経緯のなかで一定程度証明されてきていると思うが決め手は何だろうか。

委員 : プラスチックについて対策と結論が P.35 に書いてあるが、どのようなことを行ってどのようにチェックしたか、そのチェックシステムが出来上がっているかだと思う。この例をとっても言えるが、対策について監視することが必要と思う。

副委員長 : やろうとしていることを何処までやるのが大切であり、運営協議会が足りているかということと思う。ディテールの大切な所で足りているようにも思う。

委員 : 運営協議会は結成された後、データの報告はあったが、専門的にデータを読み取れる人がいなかった。それでクリーンセンターにデータを見せてもらったりしたが、周辺住民のためにアドバイスする専門家がいれば良いと思っていた。工場なのでデータを見せることが初期はなかった。私は20年間だれで

も見られるように作ってほしいと要望し、やっとできた。その辺はパートナーシップといえども行政が答えてもらえなかった。桜川村へ焼却灰を運んでいたが、情報公開でようやく判ったりすることがあった。隠してやるのはまずいのではとけんか腰で要望を行ってきたが、行政は要望に対する努力をするべきと思う。今後も同じように情報を隠すようでは、クリーンセンターは来ないほうが良いと思う。最近は良くなったが新しいクリーンセンターにあっても一番重要で、手のうちを見せてくれるほうが良い。今は手当の状況まで判っているので、万が一のことがあるかもしれないが、何かがあったとき知らされているとは違う。今は改善されてきたが知らされていることと迷惑施設との部分と思う。

副委員長 : 信頼関係は重要なので議論を続けたい。

委員 : 高温のものを焼いて寿命が短くなったと思う。外観が綺麗でも内部は老朽化している。17年に精密機能診断を行っているが、これらもお手盛りでは無いと、明確にやって行って欲しい。これをギリギリになって建て替えると二枚橋のようになる。ごみが街に溢れることがないようにしてほしい。感情論では無く、今後は科学的な根拠によって説明して欲しい。施設は安全安定を第一にRC造等頑丈に作ったので、爆発が起きても周辺住民が判らなかつたりと、24年間の実績についても残して行ってほしいと思う。

委員 : パートナーシップを行ってきたが、どんなことが起きても周辺市民へ迷惑をかけないようにやって欲しいとの願いを行政は聞き入れてくれた。結果、外は綺麗でも中は痛みが激しい状況である。爆発があっても行政は直ぐに報告がされたりした。我々は専門家では無いので判らないところがあるが、説明を受けて理解してきた。迷惑施設と言われるが、人間が生きて行くのに必要なもの、市民としてどこにあっても必要と考える施設であると考えもある。今度作る施設も更に前進させながら、周辺住民とコンタクトをとって行ってほしい。

委員 : 爆発する場合は、不燃ごみの破砕機でおきている。ごみの量から言ったら燃えるごみが多いので分別は多少緩いと思うが。ボンベ類は単身者ではなかなか出さないのでは無いか、戸建ての燃えないごみの分別の悪さがあると思う。関前や境あたりはごみに関する意識も薄いので、各種団体と協議してはかかっていく必要があり、システムチックに監視できるようにしていくのもこの委員会の仕事と思う。

委員 : 商業者の立場からでは、分別の方法が自治体でバラバラなので、従業員が入ってきた小さいところでは、住んでいるところの分別で会社の中でも分別をしている。その意識も改善していく必要がある。

副委員長 : 確かにそうだと思う。安心の確実性と条件を市民との間に共有して担保して

いくことが必要ですね。

委員 : 委員より最近信頼関係が生まれてきたと聞いたが、周辺住民の方々が苦労してきたことをアピールしていきたい。市も努力はしてきたし、情報公開等行ってきたが、さらに情報を公開して説明責任を果たしていく、安全安心と止まってはいけない施設としていくことがある。クリーンセンターを見にきて欲しいとアピールしたが見学者は少ない状況であり、市民全体でごみ問題を強く訴えていきたい。

委員 : 過去情報公開されても市民側に見えないという部分が重要なポイントだと思う。市民側にたったコンサルティングをして欲しいとのことと思う。市民側にたってアドバイスできる人がいた方が良く、必要と思う。消化しきれない情報が不安になっていくと思う。

委員 : 情報公開と説明責任は行政の義務である。その中で、チェックするのとフィードバックすることがはっきりしていない点を先ほど述べた。それに対してアクト（行動）することをプロジェクトの中で、役割を明確にして進めてほしいと思う。施設を作ることは大切だが、情報公開、説明責任、チェック、フィードバックすることが行われて良い施設になる。今回の重要なテーマになると思うので、是非議事録に残し反映して行ってほしいと考えます。

委員長 : 信頼に足る専門家を選ばなければならない。そしてその専門家を信用しなければならない。産業廃棄物施設で、住民と協定を結び、施設の鍵を渡し、いつでも水をくんだり資料を見たりできるようにしているところもある。入ってくる車は全数ビデオを取ったり、安定型の処分場だがシートを使わず有害物を入れないことを宣言したりしているところがある。信頼関係はやるだけやって生まれてくる。自治体と市民の参加の基で住民協働との内容があって、23年前に書いてびっくりした。官民協同は信頼関係を行動に移すこと。パートナーは行政と対等と言われるが、お金にしても何にしても比べられないが信頼関係を行動に移すことで協働ができる。

委員 : 専門家を信用しなければと聞いて思いましたが、クリーンセンター稼働後 10 年位たった頃、建て替えについて話したことがあったが、某市長が駄目だと言い、不信感が募った。住民を行政が信用してこなかった。助走をしながら進めて行かないと時間が掛かるのでということで、日程まで決めて整理してきたが中止になり、不信感が募った。市民が一生懸命行っていることに対し裏切らないで欲しい。環境報告書を北工場に視察を行ったときに貰ってきたが、判りやすいのでクリーンセンターも細かく判りやすく作って欲しい。質問も F A X で最終ページに質問出来る様式もあった。開かれたクリーンセンターになっていくためには必要なことと思う。時間が掛かるので早めの準備が必要となった。

- 委員 : 資料の何処を見ても事業者のごみ減量が必要との認識が頭にある。
- 委員 : 先生の本の中で信頼するとあったが、信頼して貰うためには何をしたらよいかを聞きたい。
- 委員長 : 約束していることを守る。情報公開するならば隠しごとをしない。それから課題を解決するコンピテンス能力。あと参加することが大切。
- 委員 : 参加することは聞いていた。入り口のことを考えることと現場の意見を聞くことを言われた。現場の人の話を聞いたが、手選別の作業改善と個別集配の効果について、改善や効果が見られていると思う。出す方は自分の家の前にあったが、良いと思う。プラスチックについては空気を運んでいる状況で改善する方法を考えたりとある、協議会も重要だが、今まで行ってきたことを自慢して良いと思うが位置づけて新クリーンセンターを作っていくと思う。
- 副委員長 : どのごみを誰がどこで処理しているかを書かないと行けないと思う。コミュニケーションの話なので広報委員会で検討すべきと思う。
- 委員 : 各ごみ施策の成果を明確にして汲んでもらえればと思う。
- 委員 : ごみの減量は焼却の規模に影響するので、武蔵野は良くなったが更に良くすることをごみ減量化の担当にお願いしていきたい。ごみの分別カレンダー等を繰り返し行って欲しい。
- 委員 : 昨日、昭和電工に視察に行ってきたが、毎年入札しているが、行く場所によって中身が全然違う、あめ玉のプラスチックを一生懸命とっていたが昨日行った所は多少汚れても問題無いが、国の抜き打ち検査で問題があるとのこと。汚れているプラスチックが入ると他も汚れるので問題なので、入札によって分別が違うとなると難しいこととなる。市とのレベル合わせも分別による指導も必要と思う。
- 副委員長 : 焼却を中心にして色々な方面に議論を進めていければと思う。今日は本質的な議論があったので、残りは次回にしてはと思う。スケジュール等も説明が必要なので次の議題の説明をしていきたいと思う。
- 事務局 : 先にスケジュールを説明していきたい。

2. 委員会スケジュール

- 事務局 : 任期が3月末なので、3月に中間報告をして、6月に最終報告としていきたいと考えている。21年度の前期くらいまで委員会を継続していきたいと思う。
- 副委員長 : 長期的な話はあったが、どこまで話を進めるかとなるが、少し委員会を延ばして、どこまで決めることを考えているか。
- 事務局 : 今回出したスケジュールでは、20年度末までに在り方論を議論していただき、21年度入って用地をどう考えるかを入れてほしい。

- 副委員長 : 委員会はこのメンバーで考えているのか
- 事務局 : そのように考えている。
- 委員 : 事務局の話では用地の話をして3ヶ月で行うことを考えているのか、その後まだ詳細な検討が続くのではないか。用地についてどこまでまとめるのか。設置スペースはまとめられているが、用地の選定の話は別と考えるが。
- 事務局 : その辺を委員会でどのように考えるか議論を頂きたいが。時間的な制約もあるので公有地以外に用地を求めていくのか等を考えて整理していきたい。
- 委員 : 市長より頂いたものでは、用地の選定が入っていたが、そこまでは結論を出さなきゃ行けないと思う。
- 委員 : 一番最初に話したが、用地の話が簡単に終了すると思えない。どの程度のスペースが必要か、周辺の環境で考慮すべき点をアウトプットできると思うが、候補地を決めるのはできないのではないかと。
- 委員 : 用地の話について見えないのである程度の所までは市が出して欲しいと考える。こうありたいとの候補を上げてほしい。そこが見えないと不安一杯で降りることとなる。
- 副委員長 : 市長の諮問はトラブルというか、しんどい選択を市民参加で行ったが、私はいわゆる我々がどのようなものを作って市民に理解を得るかが重要で、用地をどのように選定するのかを議論することで、在り方を整理してどのような場所にするかの判断は行政判断で良いと思う。基本的な姿勢はそこまで思っている。
- 委員 : 苦渋の選択で決めて、今後更に長い間にこの施設があり、市の縦割りで他の部署への影響、スポーツ部門についての利用等、他の部署も併せて市の総意を出して欲しい。
- 委員 : 用地の案は出すべきと考える。最初にどのような施設を作るかが判らないと用地が決まらないとの議論だったので、ある程度決める必要があると思う。有力な場所の案までは出さないといけないと思います。
- 委員 : スケジュールから言うと短いと考える。新しい情報を整理していくには時間が必要と思う。
- 委員 : 整備の規模等の議論は頂いたが、一定程度整理の条件が見えてきており、用地の範囲が見えてきている。その次に搬入車両の問題が出来てくる。市で持っている一定程度の用地は無い状況。その後周辺まちづくりになると思うが、公共用地と考えると無い状況。新たに1.5haの用地を探し、必要な道路付けができていくこととなり、条件整理を行った上で用地を選定して頂きたいと考える。
- 委員 : コミセン勉強会では、どこの用地かとの質問が無い。周辺住民が押しつけられる状況であるのが嫌な状況である。少人数で決めるのではなくみんなの意見を聞く場が必要となる。私たち周辺住民としてはどう伝えるのが良いのか

は伝え方の覚悟にかかっていると思う。サジェスションはできるが決定は市が行うべき。

委員 : それだけの用地がどこにあると考えると、中央公園等になってしまうが、30年前も同様であったと思う。しかし、無関心層がいてもらったら困るのでコミセンを歩いているので、そのあたりをご理解頂く会になってしまうが、申し訳ないがあそこが最有力と言ってしまう。

委員 : 整備用地の確定をしていただきたいの他に、まちづくりも行って欲しいとのことで、明確に委員会では言えないので、第1候補、第2候補と決めていくことになる。ひとつのエクスキューズで委員会から答申があったとのことが欲しいとの理解をしている。ここで用地の話せず中間報告をする意味が無いと思う。行政が判断出来る材料は出すべきである。市の中で面積の中で探しても限られているので議論の余地は無いと思う。そこまでは必要と思う。

委員 : 1回目の時に用地は置いておいてとのことだったが、もう少し冷静に考えると施設についてはこのような大きさ等の目処はたった。用地の検討はこの後続けて行うべきとの提案があったとのことで、市から了承があったと考えた。改めて用地をこの委員会で行っていくことと理解している。用地に関しては改めてスケジュールを決めて行ってはと思う。スケジュールをはっきりして欲しい。検討をするならば市内のいくつかの候補にあげて、目に見えた結論を白紙にしてから行って欲しいと思う。先ほどの考えで良かったのか私は再度確認したい。

副委員長 : 私はどのような場所でも受け入れられる施設とするための議論であったと思っている。その周辺の人が受け入れることができる施設とすることが重要と思う。候補地を出しても形式論になってしまうと思う。今の場所に建て替えていくことで東側に移すとのことは意味が大きいと思う。

委員 : 委員会を出ていない話をベースにして、次の代替用地について考えている。協議会でもそうだが、それではそれで本当に良いのか意見を聞く場にするのがこの委員会の役割無いか。

副委員長 : 選ぶ手順をどうするかとのことだが、どちらかの選択をすることと考えている。

委員 : 各ブロックに清掃工場の候補地を提案してもらい、市民に危機意識を植え付けることが重要では無いか。

副委員長 : どちらが有効であるかの議論。

委員 : 理屈付けを最初に決めるのではなく、手順を踏んで行って行きたいと思う。

委員 : 操業協定書を作る段階で知っているのだが、建て替えについて一項目を入れて欲しいと最初にあった。将来はその時に考えようとなった。疑義があるこ

とは、そのとき協議するとなり、運営協議会だけで決められないから委員会で図る流れになっている。未来永劫ここにあることは納得できないことであるが、ここしかないかとの理解もある。それが運営協議会の意図することである。ここが最適地であるとなるとそれは尊重します。

委員 : 東側の用地について、書いてあるが、施設が大型化していくと東側だけで足りないでは無いかとのことで、色々な施設を入れるとグランドの方を掘るなどしないと、足りないのではないかと考える。結果行政の方で政治判断と思う。

委員 : その資料をここで出したことは無いでしょう。議論もしていない。今後の検討事項ではないか。

副委員長 : スケジュールにはその資料確認と整理を考えた上で可能と判断しているのか。

事務局 : 既に運営協議会の中で 13 候補地を整理しているので、道路づけや諸条件を整理すると早いうちにできると思う。当初プール用地に関して市はここですとして決定してきたが、将来の建て替え用地をどうするのかを考えて考慮して施設を建設してきた経緯がある。副委員長が言ったように、どのような場所があるかはすぐに出せる。

委員長 : 用地だけでなくどこが良いかはある程度決めていくことが良いと思うが、複数方式が良いと思う。

副委員長 : オーソドックスな候補地選びをして行きましょう。候補地選びについて意見を出してください。

委員 : スケジュールを含めて議論して行きましょう。候補地が上がってきた周辺の方に説明することも必要となると思う。その対応を含めて考えてもらいたい。

副委員長 : そこも含めて整理して行きましょう。用地選定日程と考え方等を出して欲しいと思う。

了 (午後 9 時 40 分)